

平成14年度外部評価委員会報告

神奈川県温泉地学研究所

日時 平成14年10月 4日(金) 10時30分～12時

場所 温泉地学研究所会議室

委員 評価委員は、次表のとおり。

委員名	所属	専門分野	
岡田義光	防災科学技術研究所企画部長	地震	委員長
江藤哲人	横浜国立大学教育人間科学部教授	地質	
森 和紀	日本大学文理学部教授	地下水・温泉	

外部評価委員会次第

1. 委員長の選出
2. 当所の調査研究業務について
3. 調査研究課題
 - (1) 県西部地域における地殻変動モデルの構築(プロジェクト研究の紹介)
 - (2) 神奈川県西部地域における応力蓄積域の特定
 - (3) 箱根火山のカルデラ形成史の解明
 - (4) 大深度温泉中のホウ素の起源に関する研究
4. 分科会(個別指導等)
5. 評価結果

外部評価委員会による評価の要点

1. 神奈川県西部地域における応力蓄積域の特定
東北日本の三陸沖では、この研究が目指すような成果があったが、県西部地域のようにプレート構造が複雑な場所では、果たしてこの研究の考え方が良いかどうかは判らない。あと半年で方向性を見つけ、さらに1年間(15年度)で成果を出すくらいのスケジュールが適当ではないか。成果を楽しみにしている。
2. 箱根火山のカルデラ形成史の解明
できるだけ多くの手法を使うつもりであれば、凝灰角礫岩の上にある湖成層のケイ藻化石を綿密に調べることも考えたら良い。委託費で対応するか、そうでなければ共同研究でも対応できると思う。試料が限られているという制約からすると、明確な結論を導きにくい面はあるが、興味深い大きな課題であり、この研究ではすでに新しい事実を見いだしており、その結果だけでも高い価値を持っている。さらに実証作業を進めて、新たな適切なモデルを出していくことが必要だろう。

3．大深度温泉中のホウ素の起源に関する研究

非火山地域の大深度温泉が増えていることに伴う課題で、社会的な背景があり、温泉資源の保全・保護の点からも意義のある研究である。温泉水のホウ素に焦点をあてている点は着眼点として興味深い。源泉間相互の干渉にも着目し、手法にトリチウムによる年代測定を加えたらなお良いと思う。成果を期待している。

資料1 当所の調査研究業務（概要）

1．中期研究計画に基づき、次の4つの目標課題に沿ってプロジェクト研究、経常研究等の調査研究を進めています。

目標課題

- (1) 県土の地質構造の研究
- (2) 地下水総合保全のための地下水流動機構の解明
- (3) 温泉資源の保護と適正利用のための湧出機構等の解明
- (4) 地震・火山災害軽減のための地震予知研究と火山活動の予測

2．中期研究計画に基づいた調査研究とは別に、県庁の4部1局1庁から行政依頼の業務や調査研究を実施しています。

資料2 調査研究課題

1．プロジェクト研究の紹介；県西部地域における地殻変動モデルの構築

県西部地域で観測される地震活動および地殻変動を把握し、県西部地震の発生のシナリオを構築する。

2．調査研究課題と概要

- (1) 神奈川県西部地域における応力蓄積域の特定(プロジェクト研究の一部)
当所が観測している地震波形データ等を解析して県西部地震の応力蓄積域を特定する。
- (2) 箱根火山のカルデラ形成史の解明（重点基礎研究）
箱根火山の基盤になっている凝灰角礫岩を岩石学的、堆積学的に研究、調査し、中央火口丘の凝灰角礫岩が形成された年代および成因を解明する。
- (3) 大深度温泉中のホウ素の起源に関する研究（経常研究・共同研究）
大深度温泉開発に関わるルール作りに資するため、大深度温泉中のホウ素に着目し、ホウ素の起源を明らかにするとともに大深度温泉の生成機構の解明を進める。